

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 25 日現在

機関番号：32683

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25770272

研究課題名(和文)北米先住民カジノ産業についての歴史学的分析

研究課題名(英文)American Indian Tribal Gaming: Its effects on the American Indian History

## 研究代表者

野口 久美子 (NOGUCHI, Kumiko)

明治学院大学・国際学部・講師

研究者番号：00609571

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はトウルリヴァー保留地のカジノ産業を事例として、同産業の発展過程に関する歴史学的研究を行った。期間中、カリフォルニア州サンブルーノとワシントンDCにおける公文書館調査と同保留地における計3回の現地調査を行った。結果、同産業の経済的成功を基盤とした先住民の政治的影響力の増加、保留地や部族の土地における部族自治権の強化、部族による周辺地域の活動、機関に対する経済的援助など通じた、先住民の非先住民社会に対する様々な影響を明らかにした。以上の研究成果は国内での論文投稿、学会発表、部族議会での報告、『見える民から連邦先住民部族へ』(アメリカ研究振興会の助成金受給)の出版を通し広く公開した。

研究成果の概要(英文)：This research project, the historical analysis on the development of Indian Gaming Industry with the case studies of Tule River Indian Reservation includes the archival investigations in the National Archives in San Bruno and Washington DC., U.S. and filed researches on Tule River Reservation in California. The results on this project disclosed various impacts of the Native American Communities on their non-native neighbors through the strong political voices of tribal governments to the local governments, the increase of the tribal sovereignty on the newly gained tribal lands as well as on the reservation, and the tribal investments on the local institutions, all of which had been based on the rapid tribal economic development. Those research results had been shared through the conference presentations, journal publications, and a book publication inside and outside of Japan.

研究分野：アメリカ史

キーワード：アメリカ先住民 アメリカ先住民史 カジノ 部族自治 カリフォルニア州

## 様式 C - 19、F - 19、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

1980年以降、アメリカ合衆国(以後、合衆国)の主要大学における北米先住民学部(ネイティブ・アメリカン・スタディーズ、以後NAS)の発展により、先住民史研究における部族史研究が活発化した。NASは、「アメリカ的民主主義」の中で周縁化した弱者として、ステレオタイプ化されてきた先住民像を批判し、多様な先住民社会、特に部族社会の現状に関心を促す一方、先住民的歴史観や新たな歴史史料の可能性を用いて、既存の歴史学に批判的解釈を加える先住民史の新潮流を生み出した。部族史研究は、脱帝国主義的な歴史観と先住民社会の多様性を示すNASの実証研究として発展した。新たな学問分野としての部族史研究の中で、カリフォルニア州に居住する先住民の部族史の蓄積は少ない。それは同州の多くの先住民が、伝染病、戦争、ゴールドラッシュ後の移住者の急増、強制移住などによる急激な人口減少と、連邦政府の条約不履行による土地基盤の喪失により、アメリカ社会の中で「見えざる」存在であったためである。

一方で、近年、カリフォルニア州の先住民部族がアメリカ社会に及ぼす影響力は大きい。その背景には、1988年の先住民カジノ規制法(以後、カジノ法)の下で本格的に開始され、今日では全米のシェアの45%を占めるまでに成長した先住民保留地におけるカジノ産業の発展がある。同州の先住民部族は、都市部近郊に保留地を持つというその地理的条件により、カジノ産業で成功を納め、現在、その収益金は、州への配当金を含め予算の約15%以上を支える。同州の部族はアメリカ社会における先住民のイメージ(貧困、孤立、など)とはかけ離れた、「リッチな企業体」として現代社会での存在感を増しているのである。

### 2. 研究の目的

そこで本研究は、アメリカ帝国主義下における歴史的経験の中で伝統的部族形態を維持してきた先住民部族が、カジノ産業へ参入し、20世紀における経済発展と自活の道を切開いていく過程を、トゥールリヴァー先住民部族(以後、トゥールリヴァー部族)の事例で検証する(20世紀中期-現代)。合衆国の建国以来、先住民部族は「主権国家(sovereign nation)」としてその法的、政治的立場を承認され、連邦政府の信託統治する保留地内において、一定の自治機能と、税制免除を保証されている。先住民カジノ産業は部族自治の名の下に、保留地内における自由な経済活動の一環として承認され、発展してきた。本研究では、トゥールリヴァー部族の事例を用いて、カリフォルニア州における「見えざる部族」が、カジノ産業を通していかに経済発展を達成し、それは伝統的部族形態と部族自治にいかなる影響を与えたのか、さらには、そうした部族は、いかなる条件の下で、アメリカ社会に政治的、経済的影響力を持つエスニック・マイノリティーとして「可視化」されるに至ったのか、以上の点における部族、州、連邦政府のカジノ産業を巡るポリティックスについて分析を行う。

### 3. 研究の方法

具体的に、合衆国における、1980年代以降の先住民カジノ産業の発展と、同時に活発化した「反先住民カジノ議論」について、それらの背景、経緯、かつ個別事例を提示し、歴史学的分析を加えることである。具体的に本研究は、個別事例としてカリフォルニア州中部に居住する先住民、トゥールリヴァー部族)によるカジノ産業の発展過程を取り上げつつ、1)先住民カジノに関する司法、立法、行政上の解釈を整理し、2)

カジノ部族の土地買収を契機とした反保留地拡大論争を分析し、最終的には3)「土地」の帰属問題に対するアメリカ帝国主義的解釈に、先住民的歴史観から再考を試みる。

#### 4. 研究成果

3で提示した1)については、学会発表で分析し、カジノ産業が1960年代における先住民社会の貧困、合衆国の建国以来構築されてきた部族と合衆国の条約締結関係に基づく先住民の自治権という二つの側面から、カジノ法制定過程を説明した。また、現在、およそ半数の先住民部族がカジノ産業に従事している一方、その収益が、カリフォルニア州など一部の地域の少数部族に集中していることから、カジノ産業が保留地の立地条件に大きく左右される点も指摘した。

2)については、学会発表において分析を行った。1970年より本格化した先住民カジノ産業は、以後急成長を遂げ、2000年代には、カジノ適正法案に象徴される、周辺住民からの反カジノ議論を引き起こした。特に、2000年代以降のカジノ産業の成功に伴って活発化した、部族による保留地周辺の土地購入は、カジノ適正法案に結実した。カジノ適正法案は、部族が(多くの場合においてカジノ産業からの収益金を用いて)土地の入手(さらには連邦政府の信託化)を希望する際に、その部族と入手希望の土地との歴史的関連性を立証することを義務化している。本研究は、2000年代以降のカジノ産業の実態とその収益金を用いた部族の保留地拡張政策と、それが引き起こした反カジノ論争について、チューリヴァー部族の事例をもとに検証した。

3)については、雑誌論文、図書、学会発表で分析した。上記のカジノ適正

法案の背景には先住民の土地と、それともなう自治権の拡大に対するアメリカ社会からの強い反発がある。カジノ規制法を巡る議論は、先住民の居住地を「フロンティア」と表象して国土を拡大させてきた合衆国が、その補償政策として掲げてきた先住民部族の法的地位を、今日、合衆国がいかに保持し、或いは、歴史上繰り返してきたように、修正、破棄していくのかという葛藤を示している。

一方で、カジノ産業を巡る一連の議論は、カジノ産業を担う「部族」とは一体なにか、あるいは、「部族」に所属する「先住民」とは誰なのか、というアイデンティティ・ポリティクスを含む。カジノ産業は、アメリカのエスニシティの一部として語られる「部族」「先住民」が、その他のエスニック・グループとは異なり、厳格な法的地位と政治的自治権を含まざるをえないという「現実」を露呈した。今後は、アメリカのエスニシティ研究の中に、先住民カジノ産業を解釈する試みが必要である。

また、学会報告で示したように、同研究では、合衆国も含めたヨーロッパ諸国による帝国主義下においてさえ、伝統的部族形態を維持してきた部族に注目し、先住民の語りや記憶、証言で史料の欠如を補い、その歴史的経験を部族史として明らかにした。それは、人口減少と周辺環境の都市化、そして経済的成功が、必ずしも、先住民の伝統的部族形態の崩壊とは直結しないという事例を検証する歴史学的試みであった。同時に以上の研究は、カリフォルニア先住民のように、その移動性故に伝統的土地基盤を立証する手段(公文書や法的史料、部族史など)が欠如している部族にとり、部族と「母なる大地」との歴史的関連性を学術的に立証する役割を持つ。特に、部族カジノ適正法に直面している同州の諸部族にとって、部族史研究は、経済発展と将来的

な自活に対する学術的サポートとなるものであることが分かった。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

野口久美子「公民権・ポスト公民権時代におけるアメリカ先住民研究の設立過程と展開 - ジャック・フォーブズの教育理念と史的境界の再考」『アメリカ史研究』第37号(2014), 22-38.

野口久美子「インディアン再組織法再考- 部族主義の起源として-」『史苑』76巻1号(2015), 55-80 .

〔学会発表〕(計3件)

Kumiko Noguchi "Expanding 'Mother Lands': The Politics of Indian Gaming and Land Trusteeship in California" The 48th ASAK International Conference Annual Meeting, Hankuk University of Foreign Studies (Seoul, South Korea)  
(2013/11/01).

野口久美子「北米先住民カジノ経営の歴史的展開と現在」アメリカ経済史学会 12月例会報告 明海大学(千葉県浦安市)  
(2013/11/14).

野口久美子「部族に雇われるということ」民博共同研究会「米国本土先住民の民族史資料を用いるソースコミュニティとの協働関係構築に関する研究」第3回研究会国立民族学博物館(大阪府吹田市)  
(2014/07/14).

〔図書〕(計1件)

野口久美子『カリフォルニア先住民の歴史：見えざる民から連邦先住民部族へ』(彩流社、2015年).

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野口久美子 (NOGUCHI, Kumiko)  
明治学院大学・国際学部・専任講師  
研究者番号：00609571